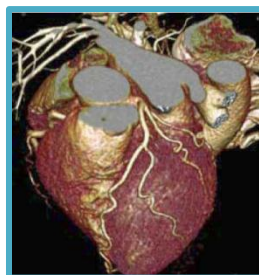


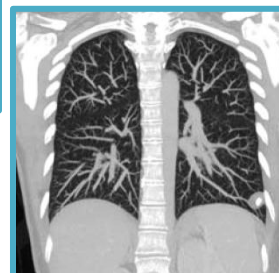
CTの紹介

当院では、2013 年 7 月にSIEMENS社製 SOMATOM Definition AS+という新型 64 列 MDCT (Multidetector-row computed tomography)を導入しました。従来当院で使用していた 16 列MDCTと比べると 64 列MDCTは、検出器(人体を透過したX線を検出する部位)の数が多くなることで、一度に複数の、かつ細かい断層画像を得ることができます。また、一度に複数の画像が得られるということは、その分検査時間の短縮が可能となり、さらには被ばく低減へと繋がります。



左; 心臓

下; 肺



画像提供: シーメンス・ジャパン株式会社

今回の CT 装置の刷新において、特に息を止める必要がある検査の場合(これまで小児や高齢者にとって困難であった20秒弱の息止め時間)、わずか数秒に短縮されます。また、撮影に要する時間が顕著に短縮されたことで、収縮と拡張を常に繰り返している心臓検査にも有用となります。

64 列MDCTの導入に伴い、当院でも心臓CT検査を開始しました。

細かい画像情報を収集することで、それを元に高画質の三次元画像を作成することも可能となります。循環器領域である心臓や、外科系領域の腹部の血管などが対象となりますが、整形領域の骨や関節などにも三次元画像は利用されています。

立体的な画像を作成することにより、検査対象部位がより観察しやすくなるという利点が生れますので、当院では新規CT導入と同時に、最新の三次元画像作成装置も稼働しています。

最新型 64 列MDCTの導入による、高機能、高画質を求めた質の高い医療を提供することで、検査時間の短縮と被ばく低減が可能となり、その結果として、患者さん自身への身体的、精神的な負担も軽減されることへと繋がります。